




令和4年度 基本施策評価シート

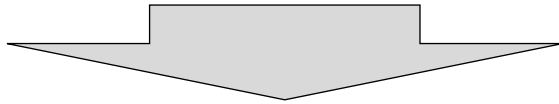
作成日 令和4年7月4日

基本施策	E9 安全・安心な水を安定して供給します		
施策の目的 (対象と意図)	対象	意 図	
	水道水が	安全で安心して飲める水として安定的に供給されている。	
長崎市第四次総合計画[後期基本計画] 基本施策掲載ページ		159ページ ~160ページ	
基本施策主管課名	事業管理課	所属長名	富本 健明
関係課名	上下水道局総務課、経理課、料金サービス課、水道建設課、給水課、浄水課、水質管理室		

基本施策の振返り

後期基本計画策定時の課題		後期基本計画期間の取組み(H28~R3年度)	
個別施策	E9-1	将来にわたって持続可能な事業運営を推進します	
ア 効率的・効果的な事業運営の推進		(ア)アセットマネジメント※1支援情報システムの構築及び局内職員に対する当該システムの周知・啓発 (イ)企業債残高の縮減、不要財産の売却・貸付及び車体広告による収入増対策 (ウ)職員数の適正化推進及び技術の継承などによる組織力の強化・向上	
個別施策	E9-2	どんなときにも安定給水できる体制を整えます	
ア 水道施設の計画的な更新 イ 水道施設の統合 ウ 水道施設の計画的な耐震化		(ア)老朽化した水道施設の更新 (イ)水道施設の耐震化 (ウ)水道施設の統合・一元化 (エ)漏水調査の推進 (オ)施設のダウンサイジング・スペックの適正化	
個別施策	E9-3	だれもが安心して飲める、安全でおいしい水を供給します	
ア 水道水の信頼性の向上 イ 水道未給水地区の解消		(ア)水質検査結果の信頼性の確保 (イ)おいしい水のPR活動推進 (ウ)未給水地区の解消	

※1 中長期的(30年~40年)視点に立ち、財政収支に基づく資産管理を行うもの



成果及び効果 (H28～R3年度)		
個別施策	E9-1	将来にわたって持続可能な事業運営を推進します
<p>①アセットマネジメント支援情報システムの構築及び局内職員に対する当該システムの周知・啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設情報を一元管理し、最適な資産管理を可能とするためR5年度から運用を開始する当該システムの構築が進んだ。 ・構築後は全職員でシステムを活用し、精度の高い中長期の更新計画の策定が可能となる。 <p>②企業債残高の縮減、不要財産の売却・貸付及び車体広告による収入増対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業債発行額を元金償還額以下に抑制し、期間中、残高を約47億円縮減した。 ・その他、活用予定のない土地の売却及び車体広告による収入増対策などにより、将来の財政負担の軽減を図った。 <p>③職員数の適正化推進及び技術の継承などによる組織力の強化・向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高島上下水道事務所の廃止等組織体制及び職員配置の見直しにより、再任用職員等を削減した。 ・「長崎市上下水道局経営プラン」を策定し、戦略的経営に向けた事業運営の在り方について方向性を示した。 ・その他、職員の計画的な採用、職員の技術力の向上のための研修を行うことにより、将来にわたる持続可能な事業運営に寄与した。 		
個別施策	E9-2	どんなときにも安定給水できる体制を整えます
<p>①老朽化した水道施設の更新</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配水施設整備事業により、期間中、約78kmの老朽管の布設替えを行った。 ・幹線管路を優先して実施するなどの見直しを行い、基幹管路の耐震化を進め、管路の安全性を高めた。 ・併せて、更新管路のダウンサイジング等により、事業費の縮減が図られ、更新延長を増加させることができた。 <p>②水道施設の耐震化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基幹浄水場、配水池等の耐震化が図られた。 ・併せて施設のダウンサイジング等により、事業費の縮減した。 <p>③水道施設の統合・一元化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合併地区の施設の統廃合が完了したことで、合併地区への安定した水の給水を確保することができた。 ・老朽化し耐震性能のない浦上浄水場と道ノ尾浄水場については、浄水場の統廃合及び近隣自治体との共同整備に取り組むこととした。 <p>④漏水調査の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漏水調査の結果、期間中、2,567件の漏水を発見し、約1,289万㎡の漏水を防止した。 ・また、これまでの漏水調査結果に基づき、調査方法を見直すことにより、漏水量を削減することができた。 		
個別施策	E9-3	だれもが安心して飲める、安全でおいしい水を供給します
<p>①水質検査結果の信頼性の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国が定める基準を含めた水質検査計画に基づき水質検査を着実に実施し、安全・安心な水の供給が図られた。 ・水道GLP(Good Laboratory Practice: 優良試験所規範)を着実に運用し、適正かつ高品質な水質を確保した。 <p>②おいしい水のPR活動推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水フェスタ、親子見学会及び出前授業の開催し、安全・安心でおいしい水のPRが図られ、長崎市の水道水や水道事業に対する市民の理解や認識が深まった。 ・水道創設130年を記念し、水道資料室のリニューアルを行い、専門的な資料室としての機能の充実を図った。 ・「上下水道局広報戦略」を策定し、今後の広報方針や具体的な取組等を示した。 <p>③未給水地区の解消</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度に桜谷地区及び大崎地区の139戸、412人に給水を開始した。 ・また、令和6年度までに、宮摺地区、以下宿地区、大野・毛首地区についても給水を開始することで、安全な水を安定して供給する予定である。 		

問題点とその要因(H28～R3年度)		
個別施策	E9-1	将来にわたって持続可能な事業運営を推進します
<p>①アセットマネジメント導入計画策定及びシステムの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセットマネジメント支援情報システム構築後の当該システムを活用した事業運営を推進する必要がある。 ・また、局職員に対するアセットマネジメントを活用するためのスキルの研修が必要である。 <p>②企業債残高の縮減、不要財産の売却・貸付及び車体広告による収入増対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少に伴う料金収入の減、老朽化した施設の更新に係る費用の増など、今後の財政運営は厳しくなる見込みである。 <p>③職員数の適正化推進及び技術の継承などによる組織力の強化・向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来の行財政改革の手法に加え、広域化や官民連携などの新たな取り組みが求められている。 ・水道技術研修施設を活用した研修プログラムによる専門性の向上、近隣市町や民間事業者との共同開催などさらなる研修の充実が求められている。 		
個別施策	E9-2	どんなときにも安定給水できる体制を整えます
<p>①老朽化した水道施設の更新</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度成長期に布設した管が耐用年数を迎え、今後、さらに耐用年数を超える管が増加していく。 <p>②水道施設の耐震化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起伏に富んだ地形的な要因により、耐震化すべき施設が多いため、耐震化に要する大きな財源が必要である。 <p>④漏水調査の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経年劣化による配水管や給水管の漏水が新たに発生している。 		
個別施策	E9-3	だれもが安心して飲める、安全でおいしい水を供給します
<p>②おいしい水のPR活動推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎市の水道事業や水道水に対する認知度が不足している。その要因としては、ホームページやSNSの活用が十分でないことがあげられる。 		

今後の取組方針

E9-1 将来に渡って持続可能な事業運営の推進

→【E8-1 いつでも安心な水を市民に届けます】・【E8-2 汚水と雨水を適正に処理し、健全な水環境を守ります】

①アセットマネジメント導入計画策定及びシステムの構築

最適なアセットマネジメントの実施を行うには、職員全員がアセットマネジメントに関する認識と必要なスキルを持つことが必要なので、全職員にアセットマネジメントに関する研修を行うとともに、システム構築後のアセットマネジメントの実施体制を策定し、アセットマネジメントの基盤を強化する。

③職員数の適正化推進及び技術の継承などによる組織力の強化・向上

広域化などの新しい考え方を踏まえた上下水道局マスタープラン等の着実な進捗を図るとともに、技術職員等の年齢構成の歪みの解消に向けた職員採用及び技術力の向上に係る研修の充実を図る。

E9-2 どんなときにも安定給水できる体制の整備 → 【E8-1 いつでも安心な水を市民に届けます】

①老朽化した水道施設の更新、②水道施設の耐震化

アセットマネジメントシステムを活用し、管路更新の優先度評価の精度を上げ、より実態にあった更新計画を策定するとともに、水道施設の耐震化を進める。また、施設更新時においては、引き続きダウンサイジングやスペックの適正化を行いながら施設の更新を加速させる。

③水道施設の一元化

今後においても、人口減少に伴う料金収益の減少や、老朽化施設の増大が見込まれることから、新たな施設の統廃合及び近隣市町との共同整備を検討を進めることで、将来にわたって持続可能な事業運営に努める。

④漏水調査の推進

今後も効率的な漏水調査を実施することで漏水箇所を早期発見、早期解消に努め、より効果的な漏水対策について見直しを継続するなど適正な維持管理を持続する。

E9-3 だれもが安心して飲める、安全でおいしい水の供給 → 【E8-1 いつでも安心な水を市民に届けます】

①水質検査結果の信頼性の確保

水質検査計画に基づいた確実な水質検査及び水道GLP(Good Laboratory Practice: 優良試験所規範)※2の維持について、今後も着実に取り組むことで、適正かつ高品質な水質の確保に努める。

②おいしい水のPR活動推進

引き続き安全・安心でかつおいしい水のPR活動は継続して推進するとともに、令和3年度に策定した長崎市上下水道局広報戦略に基づき、これまでのホームページやSNS等の活用に加え、給水スポットの設置や動画制作などの新たな広報活動を通して、安全でおいしく飲める水道水のPR活動を推進していく。

③未給水地区の解消

宮摺地区、以下宿地区、大野・毛首地区について、計画どおり事業を進捗させ、令和6年度までに整備を行い給水を開始する。

※2 (公社)日本水道協会が、水質検査機関の信頼性確保を目的に、水道水の分析や試験が適正に実施されていることを証明するもの

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2	R3
長崎市の水は安全で安心して飲めると感じる市民の割合	81.9% (26年度)	↑ 目標値	82.0%	83.0%	84.0%	85.0%	85.0%	85.0%
		実績値	79.9%	78.9%	80.0%	80.9%	78.7%	80.3%
		達成率	97.4%	95.1%	95.2%	95.2%	92.6%	94.5%
基幹管路の耐震化率 (R3年度施策評価時に追加)	37.6% (26年度)	↑ 目標値	40.1%	42.6%	45.0%	47.5%	50.0%	53.3%
		実績値	47.4%	50.1%	54.0%	54.5%	55.9%	56.4%
		達成率	118.2%	117.6%	120.0%	114.7%	111.8%	105.8%

※近年の災害の甚大化に伴い、「安全安心な飲める水」に加え、「安定的な供給」についてより市民の意識が高まっていることに鑑み、基幹管路の耐震化率について成果指標を追加したもの。

基本施策の評価

Bb 目標をほぼ達成しており、目的達成に向けて概ね順調に進んでいる

判断理由

- ・基本施策の成果指標2つのうち1つが100%以上、もう1つが94.5%で概ね95%の目標達成率となったことから「B」とする。
- ・個別施策の成果指標7つのうち、過半数を超える5つが100%以上の目標達成率となったことから「b」とする。

二次評価(施策評価会議による評価)

- 基本施策の評価「Bb」については所管評価のとおり。

令和4年度 個別施策評価シート

個別施策	E9-1	将来にわたって持続可能な事業運営を推進します		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図		
	水道事業が	効率的・効果的に事業運営されている。		
個別施策主管課名	上下水道局総務課	所属長名	春野 裕子	

令和3年度の取組概要

- ①アセットマネジメント導入計画策定及びシステムの構築
- ・令和4年度に予定している運用試験の実施に向け、システム構築業者と職員間でシステムの主要な機能要件やシステムの詳細について協議を行い、計画どおりシステムの構築が図られた。
 - ・アセットマネジメントにの構築に関する情報発信やスキルに関する研修を行った。
- ②企業債残高の縮減及び不要財産の売却・貸付等の収入増対策
- ・企業債の借入額を毎年度抑制することで、計画どおりに企業債残高の縮減を行った。
 - ・令和3年10月から車体広告の募集を開始し、ホームページや広報誌、SNSなどを活用して事業の周知を図った。
 - ・平成10年度に用途廃止した旧矢上浄水場跡地を売却することについて、市として意思決定を行った。
- ③職員数の適正化推進及び技術の継承などによる組織力の強化・向上
- ・持続可能で安定した経営基盤をつくるため、上下水道局経営プランを策定した。
 - ・技術職員等の年齢構成の歪みを解消するため、UIJターン採用など計画的な職員採用により、新たに技術職員及び水道整備士を計12人採用した。
 - ・令和2年度に整備した水道技術研修施設を活用して水道の配管修繕等の研修を実施し、職員の技術力の向上、技術の継承を図った。

評価(成果)

- ①アセットマネジメント導入計画策定及びシステムの構築
- ・アセットマネジメント支援情報システム構築業務委託において、システムの構築が進み、令和5年度からのシステムの活用に向け事業が進捗した。また、システム構築に係る情報発信やスキルに関する研修を行ったことにより職員の理解が進んだ。
- ②企業債残高の縮減及び不要財産の売却・貸付等の収入増対策
- ・令和3年度末の企業債残高を、令和2年度末に比べて約9億6千万円縮減させた。
 - ・不要資産(旧矢上浄水場跡地など)の売却益など、将来の収入増対策が確立できた。
- ③職員数の適正化推進及び技術の継承などによる組織力の強化・向上
- ・長崎市上下水道局経営プランの策定を行い、施設のダウンサイジング、スペックの適正化、広域連携や新たな技術の積極的採用など今後の事業運営の方針を明確化することができた。
 - ・計画的な職員採用により、技術職員等の年齢構成の歪みが一部解消された。
 - ・水道技術研修施設を活用し、漏水部門、給水装置、配管技術など各種研修を実施することにより、職員の実務の能力が向上した。

評価(問題点とその要因)

- ①アセットマネジメント導入計画策定及びシステムの構築
- ・アセットマネジメント支援情報システム構築後の当該システムを活用した事業運営を推進する必要がある。
 - ・また、局職員に対するアセットマネジメントを活用するためのスキルの研修が必要である。
- ②企業債残高の縮減及び不要財産の売却・貸付等の収入増対策
- ・人口減少に伴う料金収入の減、老朽化した施設の更新に係る費用の増など、今後の財政運営は厳しくなる見込みである。
- ③職員数の適正化推進及び技術の継承などによる組織力の強化・向上
- ・従来の行財政改革の手法に加え、広域化や官民連携などの新たな取り組みが求められている。
 - ・水道技術研修施設を活用した研修プログラムによる専門性の向上、近隣市町や民間事業者との共同開催などさらなる研修の充実が求められている。

今後の取組方針

- ①アセットマネジメント導入計画策定及びシステムの構築
- ・アセットマネジメント支援情報システムの構築について、今後も計画どおり着実に推進し、令和4年度の完成を目指す。また、全職員にアセットマネジメントに関する研修等を行うとともに、システム構築後のアセットマネジメントの実施体制を策定し、アセットマネジメントの基盤を強化することで、構築後のアセットマネジメント支援情報システムを活用した事業経営を目指す。
- ②企業債残高の縮減及び不要財産の売却・貸付等の収入増対策
- ・人口減少に伴う料金収入の減、老朽化した施設の更新に係る費用の増などを踏まえ、企業債の借入れを含む長期的な財政計画の構築、また、脱炭素化やDXなど社会的課題を見据えた財政計画を構築する。
 - ・令和5年度の矢上浄水場跡地の売却に向けて、令和4年度に施設の解体、土地の鑑定評価を行うなど、売却に向けた準備を行う。
- ③職員数の適正化推進及び技術の継承などによる組織力の強化・向上
- ・「長崎市上下水道事業マスタープラン」、「長崎市行政経営プラン」及び令和3年度に策定した「長崎市上下水道局経営プラン」に基づき、従来の効率化に加え、広域化などの新たな考え方を踏まえた取組みを実施することにより、更に効率的な組織・人員体制と健全な経営状況を維持する。
 - ・技術職員等の年齢構成の歪みを解消するための計画的な職員採用を実施するとともに、水道技術研修施設の活用など職員の技術力向上に係る自己啓発や研修を充実し、引き続き職員の技術力の確保・技術の継承及び専門性の向上による生産性を高める。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2	R3	
アセットマネジメント支援情報システムの構築率	-	↑	目標値	-	1.5%	4.3%	18.8%	39.5	77.1%
			実績値	-	※10.0%	※4.3%	18.8%	39.5%	77.1%
			達成率	-	0	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
職員給与対営業収益比率	13.1% (26年度)	↓	目標値	13.1%	13.1%	13.1%	13.1%	※312.6%	12.6%
			実績値	12.3%	12.4%	12.6%	12.3%	12.6%	12.8%
			達成率	106.1%	105.3%	103.8%	106.1%	100.0%	98.4%

※1 契約上部分払いを行わないものとしたため、実績値は0%であるが、平成29年度に予定していた業務はすべて完了し、順調に進んでいる。

※2 アセットマネジメント支援情報システムの構築率について、平成30年度にシステム構築業務の契約を締結したため事業費が確定し、事業進捗率を変更したものの。

※3 長崎市上下水道事業マスタープランの見直しにより、R2年度の目標値を13.1%から直近値の12.6%に変更した

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等		
1	(事業名) アセットマネジメント導入計画策定及びシステムの構築	成果指標	システム構築率	
	【事業管理課】	目標値	77.1（％、人、円など）	
	(事業目的) ・アセットマネジメント導入計画を策定 ・アセットマネジメント支援情報システムの構築	実績値	77.8（％、人、円など）	
	これらにより、計画的な施設の整備を行い、経営の安定化を図る。	達成率	100.9％	
	(事業概要) 【事業期間】平成27年度～令和4年度 【事業内容】 アセットマネジメント計画の策定及びアセットマネジメント支援情報システムの構築 【総事業費】378,335千円 ・平成27年度～平成28年度	決算(見込)額	141,312,600 円	
	長崎市上下水道アセットマネジメント導入計画策定業務委託(9,504千円) ・平成29年度～平成30年度(債務負担行為設定) 浄水場等施設台帳カルテシート構築業務委託(12,906千円) ・令和元年度～令和4年度(債務負担行為設定) アセットマネジメント支援情報システム構築に係る設計管理業務委託(13,349千円) 上下水道アセットマネジメント支援情報システム構築業務(342,576千円)	成果指標及び目標値の説明	「長崎市上下水道マスタープラン2015」の構築率の考え方に合わせて、システム構築によりアセットマネジメントの実践が可能となることから、成果指標をシステム構築率とした。 総事業費に対する事業費の割合を進捗率とし、完成年度である令和4年度に100%に達するものとした。	
	取組実績、成果・課題等	(取組実績) ・アセットマネジメント支援情報システム構築に係る設計管理業務委託 13,349千円 ・上下水道アセットマネジメント支援情報システム構築業務(R元-R4債務) 342,576千円 (成果・課題等) システム構築業務について、システムに必要とする機能等を整理する要件定義と、システムの詳細について協議し策定することで計画どおり進捗した。 システムの詳細設計に係ることや、システムを効率的に活用するための業務体制見直しを図ることなど、関係各課と調整しながらシステム構築業務を行う。		

令和4年度 個別施策評価シート

個別施策	E9-2	どんなときにも安定給水できる体制を整えます		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図		
	水道施設が	計画的に整備されている。		
個別施策主管課名	事業管理課	所属長名	富本 健明	

令和3年度 of 取組概要

- ①老朽化した水道施設の更新
 - ・第11次配水施設整備事業において、機能評価による管路更新の優先順位に基づき、市内一円で延長L=10.1kmの老朽管の更新や新規布設を行った。
 - ・更新管路のダウンサイジングや新たな技術としてポリエチレン管の採用口径を拡大した。
- ②水道施設の耐震化
 - ・配水施設(つつじが丘配水槽)について、計画に基づき耐震性能を有した施設に改築した。
 - ・配水施設の耐震化や更新を進めるにあたり、配水タンクの区域ごとの将来推計人口及び有収水量を算定し、地域特性に見合ったタンク容量の見直しを行った。
- ③水道施設の一元化
 - ・老朽化した浦上浄水場及び道ノ尾浄水場を統廃合し、新たな浄水場を整備するにあたり、近隣市町と共同で整備できないか検討し、長与町と共同で整備することとした。
 - ・新浄水場の整備について、整備期間や財政負担等の縮減、効率化を図るため、令和4年度にかけて民間活力手法であるPFI等の導入可能性について検討を進めている。
- ④漏水調査の推進
 - ・漏水調査業務において、586区画の調査(調査距離:1,437km)を実施し、360件の漏水発見し補修するとともに、これまでの漏水実績を基に調査方法の見直しを行った。
 - ・その他、旧町エリアにおいてもスポットで漏水調査を行い、116件の漏水を発見し補修した。

評価(成果)

- ①老朽化した水道施設の更新
 - ・平成30年度から令和4年度までの5か年間の第11次配水施設整備事業により、老朽管の更新を推進しており、基幹管路の耐震化率は55.9%(R2)から56.4%(R3)に改善した。このことにより、破損事故の未然防止、管路の耐震化、漏水対策の強化が図られた。
 - ・口径のダウンサイジングとポリエチレン管の適用拡大により、更新延長を増加させることができた。
- ②水道施設の耐震化
 - ・水道施設の耐震化事業により配水池耐震施設率は39.3%から40.9%に改善した。
- ③水道施設の一元化
 - ・広域化による新浄水場の整備により、国からの財源を活用することが可能となり、具体的な取り組みが推進された。
- ④漏水調査の推進
 - ・漏水調査業務委託においてを、586区画の調査(調査距離:1,437km)を実施し、その他にも漏水調査を実施したことで、配水管及び給水管の漏水箇所を476件発見し、市内全域で約2,251千㎡の漏水を解消した。
 - ・有収率が、令和3年度は89.3%となり、前年度から1.3%改善した。

評価(問題点とその要因)

- ①老朽化した水道施設の更新
 ・高度経済成長期に布設された管路が耐用年数を迎え、今後耐用年数を超える管路が大幅に増加していく。
- ②水道施設の耐震化
 ・令和3年度の配水池耐震施設率は向上しているが、今後とも着実に取り組む必要がある。
- ③水道施設の一元化
 ・人口減少社会の進行、産業構造の変化などにより水需要が減少し、給水量や給水収益が減少傾向にある一方で、大規模地震や気候変動などによる災害が激甚化しており、老朽化した施設の更新計画については、水需要に合わせたスペック(性能や容量)の適正化の検討や施設の安全度向上のための耐震化を行う必要がある。
- ④漏水調査の推進
 ・漏水量が前年度より787,667m³減少したものの、さらなる有効率の改善を目指す必要がある。

今後の取組方針

- ①老朽化した水道施設の更新
 ・法定耐用年数を超えても健全な管路は多数あることから、アセットマネジメントシステムを活用し、管路更新の優先度評価の精度を上げ、より実態にあった更新時期の見直しを行っていく。
- ②水道施設の耐震化
 ・国庫補助事業の活用など、有利な財源確保に努めながら引き続き耐震化に取り組む。また、配水池の耐震化及び更新については、ダウンサイジングやスペックの見直しを行い適正な容量や配置に見直すことで耐震化率をさらに進めていくこととする。
- ③水道施設の一元化
 ・老朽化した浦上浄水場及び道ノ尾浄水場については、今後の水需要に見合った新浄水場を整備することとし、さらに長与町との共同整備の取組みを進め、イニシャルコスト及びランニングコストの縮減を図る。
- ④漏水調査の推進
 ・今後も着実に漏水調査を実施し、漏水箇所を早期に発見して漏水防止に取り組むとともに、地区の実状を踏まえ、より効率的かつ効果的な調査を検討していく。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2	R3
配水池耐震施設率	32.0% (26年度)	↑ 目標値	33.7%	35.9%	38.1%	40.3%	40.3%	40.9%
		実績値	33.0%	35.4%	37.1%	37.5%	39.3%	40.9%
		達成率	97.9%	98.6%	97.4%	93.1%	97.5%	100.0%
基幹管路の耐震化率	37.6% (26年度)	↑ 目標値	40.1%	42.6%	45.0%	47.5%	50.0%	52.5%
		実績値	47.4%	50.1%	54.0%	54.5%	55.9%	56.4%
		達成率	118.2%	117.6%	120.0%	114.7%	111.8%	107.4%
幹線管路100kmあたりの事故件数	1.4件 (26年度)	↓ 目標値	1.4件	1.4件	1.4件	1.4件	1.4件	1.4件
		実績値	1.1件	1.8件	1.9件	1.7件	1.4件	1.4件
		達成率	121.4%	71.4%	64.3%	78.6%	100%	100%

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード：E9-2】

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等	
1	<p>(事業名) 配水施設整備事業</p> <p>【水道建設課】</p> <p>(事業目的) 破損事故の未然防止、管路の耐震化、漏水防止対策の強化及び出水不良の解消を目的に老朽管の更新等を行うもの。</p> <p>(事業概要) 【事業期間】平成30～令和4年度 【事業内容】配水管の布設替及び新設 【総事業費】10,000,000千円 【事業費累計】7,313,139千円 【総事業量】延長L=60,602.7m</p>	成果指標	事業進捗率(事業費ベース)
		目標値	80.0 %
		総事業進捗率	73.1 %
		達成率	91.4 %
		決算(見込)額	1,999,583,000 円
		当該年度執行率	74.4 %
		成果指標及び目標値の説明	<p>事業の進捗を客観的に判断できる数値として、総事業費に占める事業費累計の割合を事業進捗率とし、成果指標とした。 当該年度の予算を含めた事業進捗率を目標値とした。</p>
2	<p>(事業名) 水道施設の耐震化</p> <p>【給水課、浄水課】</p> <p>(事業目的) 水道施設の耐震化を進めるもの。</p> <p>(事業概要) 浄水場、管路、ポンプ場、配水池等の耐震診断業務、耐震補強を行うもの。</p>	成果指標	配水池耐震化率
		目標値	40.9 %
		総事業進捗率	40.9 %
		達成率	100.0 %
		決算(見込)額	183,363,600 円
		当該年度執行率	100.0 %
		成果指標及び目標値の説明	<p>災害時、給水拠点となる配水池の耐震化率を成果指標とした。 これまでの耐震診断を踏まえた更新計画を目標値とした。</p>
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) ・築造工事 つつじが丘配水槽</p> <p>(成果・課題等) 配水池等については、つつじが丘配水槽の築造工事を完了した。 今後も引き続き国の交付金事業を利用しながら計画的に実施する。</p>		

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等	
3	<p>(事業名) 漏水調査業務委託</p> <p>【給水課】</p> <p>(事業目的) 給・配水管の漏水調査を定期的に行うことにより、地下漏水を発見し、これを修繕することにより有効率の向上を図る。ここでは、漏水調査を行い漏水の発見までを行う。</p> <p>(事業概要) 旧長崎市内の給水区域を対象に約700箇所の区画を形成し、夜間最小流量の計測及び戸別聴音等の調査を行い漏水を発見する。</p>	成果指標	有効率
		目標値	95 %
		実績値	93.5 %
		達成率	98.4 %
		決算(見込)額	157,636,600 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>漏水等の無効水量が減少し、結果安定した給水につながるため、給水量に対する有効水量の割合を成果指標とした。</p> <p>厚労省が「地域水道ビジョン作成の手引き」で示した目標有効率を目標値とした。</p>
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) 調査距離：1,437km 調査区画：586区画</p> <p>(成果・課題等) 漏水発見件数 配水管：20件 給水管：340件 計：360件</p> <p>漏水防止に一定の成果を上げているが、給・配水管の老朽化等により新たな漏水が生じている。今後とも漏水の早期発見と早期修繕</p>		

令和4年度 個別施策評価シート

個別施策	E9-3	だれもが安心して飲める、安全でおいしい水を供給します		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図		
	水道水が	安全で安心して飲める水であると信頼されている。		
個別施策主管課名	水質管理室	所属長名	森川 隆	

令和3年度 of 取組概要

- ①水質検査結果の信頼性の確保
 ・法で定められている水質検査を着実にこない、水質基準に適合した適正な水道水を確保した。
 日本水道協会が認定を行う水道GLP(Good Laboratory Practice: 優良試験所規範)の認定を更新(3回目)した。水道GLPの認定取得することは、単に検査の技術力のみでなく、分析環境等のマネジメントが客観的に評価されていることであり、検査結果の信頼性を確保することによって、安全・安心な水を供給していることを確認できた。
- ②おいしい水のPR活動推進
 ・上下水道局広報戦略プロジェクトチームを設置し、市民の理解を深めるための戦略的・効果的な情報発信の在り方を検討し、「上下水道局広報戦略」を策定した。
 ・将来を担う子どもに、上下水道に関心を持ってもらうとともに、上下水道に関する知識を正しく理解してもらうために小学校の出前授業を40校(1,582人)に実施した。
 ・水道創設130周年記念事業として、東長崎浄水場内の「水道資料室」を全面的にリニューアルし、水道事業の歴史を時系列に沿ってわかりやすく展示した。
- ③未給水地区の解消
 ・水道施設の整備について要望があった野母崎地区の大野・毛首、以下宿地区及び茂木の宮摺地区において、大野・毛首地区については、配水管整備、以下宿地区については減圧槽設置に係る用地取得・詳細設計、及び送・配水管の整備、宮摺地区については配水槽、減圧槽並びにポンプ場設置に係る用地取得をそれぞれ行った。

評価(成果)

- ①水質検査結果の信頼性の確保
 ・国が定める基準を含めた水質検査計画に基づき水質検査を着実に実施し、安全・安心な水の供給が図られた。
 ・水道GLP(Good Laboratory Practice: 優良試験所規範)を着実に運用し、職員の教育訓練等により分析技術は厚生労働省外部精度管理で評価され、高品質な水質を保った。
- ②おいしい水のPR活動推進
 ・小学校出前授業の実施により、安全・安心でかつおいしい水のPRが図られ、長崎市の水道水や水道事業に対する市民の理解や認識が深まった。
 ・局内の広報戦略プロジェクトチームにおいて、「上下水道局広報戦略」を策定し、今後の広報方針や具体的な取組等を示した。
- ③未給水地区の解消
 ・大野・毛首、以下宿地区及び宮摺地区への供用開始に向け事業進捗が図られた。

評価(問題点とその要因)

- ②おいしい水のPR活動推進
 ・現在の広報手段では、周知できる効果が限られており、長崎市の水道水や水道事業に対する認知度の向上が進んでいない
 ・水道水が安全でおいしく飲めることについてのPRとして、ホームページやSNS等の活用が十分でない等、これまでに以上に情報発信を強化するために、上下水道局として新たな広報戦略に基づき具体的に取り組む必要がある。
- ③未給水地区の解消
 ・整備が完了した未給水地区において水道に接続していない世帯がある。

今後の取組方針

①水質検査結果の信頼性の確保

・水質検査計画に基づいた水質検査については、引き続き確実に取り組むとともに、水道GLP(Good Laboratory Practice: 優良試験所規範)についても着実に実施することで、安全・安心な水道水質の確保に努める。

②おいしい水のPR活動推進

・小学校出前授業について、WEBによるオンライン授業の活用を図りながら対象校を増やしていく等、将来を担う子どもたちに上下水道に関心を持ってもらうとともに、上下水道に関する知識を正しく理解してもらう取組を継続する。
 ・令和3年度に策定した長崎市上下水道局広報戦略に基づき、これまでのホームページやSNS等の活用に加え、給水スポットの設置や動画制作などの新たな広報活動を通して、安全でおいしく飲める水道水のPR活動を推進していく。

③未給水地区の解消

・未給水地区解消事業の進捗に合わせ、未給水地区の世帯にも接続を促し、未給水地区の整備後の接続率100%を目指していく。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2	R3
水道普及率	97.8% (26年度)	↑ 目標値	97.8%	97.8%	97.8%	97.9%	97.9%	97.9%
		実績値	97.8%	97.8%	97.9%	97.9%	97.9%	97.9%
		達成率	100.0%	100.0%	100.1%	100.0%	100.0%	100.0%
水道水を直接飲む市民の割合	42.0% (25年度)	↑ 目標値	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%
		実績値	51.5%	41.5%	37.3%	32.2%	28.0%	29.3%
		達成率	103.0%	83.0%	74.6%	64.4%	56.0%	58.6%

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード：E9-3】

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等	
1	<p>(事業名) 水道GLP認定</p> <p>【水質管理室】</p> <p>(事業目的) 水道水を安心して飲んでいただく。</p> <p>(事業概要) 水道GLP(水道水質検査優良試験所規範、公益社団法人 日本水道協会)の認定を、4年毎に更新し、維持に努める。</p>	<p>成果指標</p> <p>目標値</p> <p>実績値</p> <p>達成率</p> <p>決算(見込)額</p>	<p>長崎市の水は、安全で安心して飲めると感じる市民の割合</p> <p>85.0 (%、人、円など)</p> <p>80.3 (%、人、円など)</p> <p>94.5 %</p> <p>472,910 円</p>
		<p>成果指標及び目標値の説明</p>	<p>毎年度実施する市民意識調査で、長崎市の水は、安全で安心して飲めると感じる市民の割合を成果指標とし、達成可能と見込まれる数値を目標値とした。</p>
		<p>取組実績、成果・課題等</p>	<p>(取組実績) 水道GLPにより、計画的な教育訓練等を実施している。分析技術の維持・向上をおこない、水質検査結果の信頼性を確保している。水質検査は水質検査計画に基づき実施し、結果をホームページで公表した。</p> <p>(成果・課題等) 外部(厚生労働省外部精度管理、日本水道協会GLP審査)的にも評価を受けている。水質検査結果の信頼性の確保と安全、安心な水道水の供給により、実績値を増加することができた。</p>
2	<p>(事業名) おいしい水のPR活動推進</p> <p>【上下水道局総務課】</p> <p>(事業目的) 信頼性が高く、開かれた水道事業を作り上げるために、広報・広聴活動を推進する。</p> <p>(事業概要) 水道施設見学会や水フェスタなどの市民参加型イベントを実施し、子どもたちの水道に対する理解を深めるとともに小学校への出前授業などを開催することにより幅広い世代を対象に広報・広聴活動を推進する。</p>	<p>成果指標</p> <p>目標値</p> <p>実績値</p> <p>達成率</p> <p>決算(見込)額</p>	<p>水道水を直接飲む市民の割合</p> <p>50.0 (%、人、円など)</p> <p>29.3 (%、人、円など)</p> <p>58.6 %</p> <p>2,010,284 円</p>
		<p>成果指標及び目標値の説明</p>	<p>「蛇口をひねって水道水を直接そのまま飲む市民の割合」が増えることにより、信頼性が高く、おいしい水を供給できていると考えられることから、アンケート調査の実施により「直接水道の水を飲む」割合を成果指標とした。</p> <p>目標値は過去の実績を考慮し、市民の半数が直接飲むことを目標とした。</p>
		<p>取組実績、成果・課題等</p>	<p>(取組実績) 小学校出前授業 40校 1,582名 水道創設130周年記念事業(「水道資料室」リニューアル)</p> <p>(成果・課題等) ・新型コロナウイルス感染症の影響により、直接参加型のイベントの機会が減少しPRの場が減少したものの、昨年より多くの小学校で出前授業を実施するなど、コロナ禍においても啓発活動に取り組むことができた。 ・令和3年度に策定した長崎市上下水道局広報戦略に基づき、これまでのホームページやSNS等の活用に加え、給水スポットの設置や動画制作などの新たな広報活動を通して、安全でおいしく飲める水道水のPR活動を推進していく。</p>

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード：E9-3】

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等	
3	(事業名) 未給水地区無水源簡易水道事業 【事業管理課】 (事業目的) 宮摺、以下宿、大野・毛首地区における未給水地区を解消するため、測量、調査、送配水管布設及び配水槽の築造工事等を行う。 (事業概要) 【事業期間】 令和2年度～令和6年度 【事業内容】 測量 一式 調査 一式 配水管 L=7,900m 送水管 L=6,600m 配水槽、ポンプ設備工事 【総事業費】1,198,864千円 【事業費累計】148,324千円	成果指標	事業費進捗率(事業費ベース)
		目標値	19.3 %
		総事業進捗率	18.1 %
		達成率	93.8 %
		決算(見込)額	121,145,841 円
		当該年度執行率	97.4 %
		成果指標及び目標値の説明	事業の進捗率を客観的に判断できる数値として、総事業費に占める事業費累計の割合を事業進捗率とし、成果指標とした。 当該年度の予算を含めた事業進捗率を目標値とした。
		取組実績、成果・課題等	(取組実績) ・大野・毛首地区：配水管整備 ・以下宿地区：減圧槽設置に係る用地取得・詳細設計及び送・配水管の整備 ・宮摺地区：配水槽、減圧槽並びにポンプ場設置に係る用地取得 (成果・課題等) ・概ね予定どおり事業の進捗が図られている。